

みなさん、おはようございます。

夏休みに入る前に、心を燃やす暑い夏を過ごしてほしいというメッセージを学校だよりに書きました。どんな夏だったでしょうか。

全国的には、毎日記録的な猛暑で、あちらこちらで水の事故が起き、残念なことに多くの子どもたちが命を落としてしまいました。心から哀悼の意を表します。

それでも、中川中のみなさんについては、命に関わるような大きなトラブルは聞いていませんので、今日、2学期の始まりの日にまた学校でみなさんの顔が見られたこと、校歌の歌声を聞いたことは、とても嬉しく思っています。

夏休み中も、いろいろなところで生徒のみなさんと会いました。地域のお祭りにいくと、どこの会場にも中川中の生徒が来ていて、楽しそうに過ごす姿が見られました。また、ボランティアでお祭りの準備から運営まで携わり、楽しみながらやりがい口にする生徒にもたくさん会いました。

他にも、スピーチの発表や部活動などの試合、コンクールなど、それぞれの場面で精一杯がんばり、活躍する姿をたくさん見せてもらいました。同じ中川中の仲間としてみなさんの姿を誇らしく思いました。

その中で、吹奏楽部のみなさんとは、私も2度一緒に演奏させてもらい、夏の良い思い出となりました。

ところで、吹奏楽や合唱の演奏には指揮者がいますね。指揮者は腕や手を動かしていろいろなことを演奏者に伝えますが、ある有名な指揮者の方は、腕の動きも大事だが、表情や目で伝わることの方が多し、どちらも大事だとおっしゃっています。

表情や身振り手振りから伝わるということは、日常生活でも経験があるのではないのでしょうか。

(手をあげたり、さしだしたりしながら、) このように手をあげたり、手をさしだしたりすると、誰かに何かを伝えたいのだなということがわかります。また、(顔を手で覆ったり、胸の前で手を合わせたりしながら、)手を自分に引き付ける動作をすることで、自分の感情を表し、それが周りにも伝わります。

身振り手振りは、見た人がすぐに何かを感じられるので、相手と共有することが簡単です。これがコミュニケーションのおおもとですね。

しかし、人間にはもう一つ、言葉という大事なコミュニケーション手段がありますね。なぜ言葉は生まれたのでしょうか。それは、細かく、豊かに感情や意思を伝えるためですし、詳しく知識や知恵を伝達したり共有したりするためです。言葉は人間の文化的な暮らしに欠かせない素晴らしい発明です。

しかし、言葉には欠点もあります。それは、言葉は、詳しくなればなるほど、伝わるのに時間がかかるということです。

身振り手振り、目や表情の方が優れているのは、一瞬ですべてがある程度伝わるということです。音声でも、叫び声などは一瞬で緊急性を伝えます。動物の鳴き声も、動物はそれを言葉の代わりに利用しています。

人間の発達した言葉は、伝え合うために話したり聞いたり書いたり読んだり、いずれも時間がかかります。

たとえば、真っ白な丸いお皿に、鮮やかな黄色で、その黄色を引き立てる真っ赤なケチャップをまとった気品のある姿、横にはみずみずしい緑のパセリが慎ましく控えている、ラグビーボールのような形で、空気を入れたらグラウンドに持ち出せそうなふっくらとしたプレーンオムレツがあって、一口食べたら、ふわっとしてとろっとした食感が上品で、甘くてバター豊かな香りが広がって思わず「おいしい！！」んー！

この夏、上野公園にあるレストラン「精養軒」を訪れて、3年生のみなさんは知っている、あのオムレツを食べてきました。そのとき私は、「おいしい」としか言わなかった。

それだけでも幸せな気持ちは伝わるけど、目の前に運ばれてきて、あのオムレツに会えたわくわく感、また、ルロイ修道士は、手を動かしているだけでほとんど食べていないのに「おいしいですね、このオムレツは」と言ったけれど、どんな味なのか、本当に美味しいのか？という期待、実際に食べてみてどうだったか、やっぱりおいしい！

言葉で伝えようとするところなのに時間がかかります。

でも言葉がなかったら、オムレツがどうだったかは、みんなで食べてみるしか共有するすべはありません。

1、2年生のみなさんは、今のオムレツの話は何だ？ルロイ修道士ってだれ？と思うでしょう。これは3年生の国語で扱う「握手」という小説に出てくる、有名なオムレツです。このたとえ話も、その小説を先に読んでいることが前提となります。その小説を読むのにも時間はかかりますね。

でも、時間をかけて小説を読み、オムレツを食べてきた人が話したり書いたりして伝える、それを聞いたり読んだりすると、オムレツのすばらしさをみんなで共有できます。

言葉は時間がかかるのが欠点ですが、お互いに意味のあるものとして大切にするととても豊かなコミュニケーションが繋がっていきますね。

だから、時間がかかるけど言葉を生かせるよう、大切にしましょう。みなさん一人一人が意識して、自分で言葉にかける時間を意味のあるものにしてください。

学校では、言葉を扱う教科でなくても、各教科に特有の言葉というものがあるから、それを大事にして各教科の力を伸ばしてください。

時間のかからない言葉があるとすれば、テレパシーというものですが、たぶんまだ人間には使えない能力ですよ。

超能力のテレパシーを持つ人をテレパスと言いますが、テレパスは、いたとしても自分の能力を隠すといえます。この中にもいるかもしれませんね。半分冗談ですが。

作家の筒井康隆さんが、七瀬というテレパスを主人公にした3冊の小説を書いています。詳しく知りたい人は、その本を、やっぱり、時間をかけて読んでみてください。

(令和5年8月28日・始業式の言葉)